

1 班 4 案

変わる暮らしに、寄り添う住まい

～家庭の変化に柔軟に対応できる 安心・安全な住宅～



● 入居対象者 ●

【世帯】

シングルマザー（30 代会社員）、
子ども 2 人（兄と妹、2 歳差）

【働き方】

末子が小 3 までは時短勤務、
その後はフルタイム

【収入】

就業による収入

○必要とする住環境

- ・子どもの成長に対応できる
- ・子どもだけの留守番時も安全に過ごることができる
- ・困りごとがあったときは支援を求められる

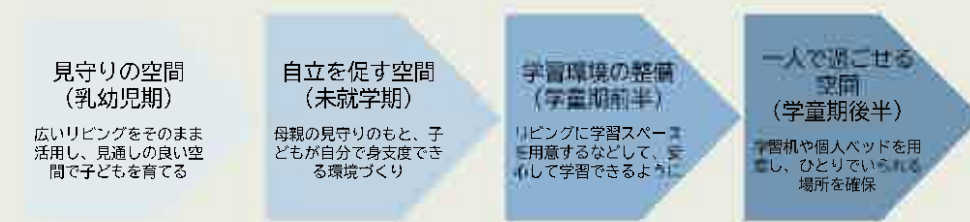


● 暮らしの提案 ●

家庭の変化に柔軟に対応できる安心・安全な住宅

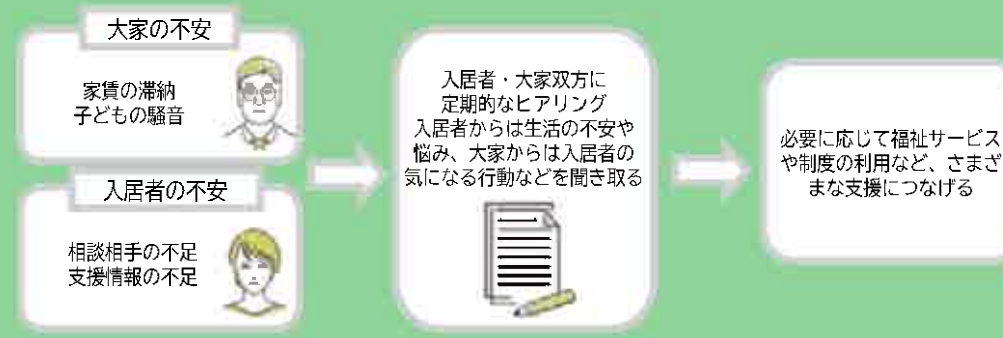
子どもの成長段階を 4 つに分け、それぞれの成長段階にあった住まい方ができるよう考えた。

子どもたちだけで留守番する時間が長いため、防犯・安全対策を重視する。
2 歳差の異性兄妹であることも踏まえ、各々のプライバシーにも配慮を行う。
子どもの成長や母親の就業状況の変化を柔軟に受け止めることのできる、可変性の高い住まいを目指した。



● サポート体制 ●

ひとり親世帯の入居は、大家・管理人にとって不安が大きい。また、ひとり親本人も誰に頼ればいいのかかわらず孤立に陥る場合がある。そのような不安を解消すべく、入居後も入居者・大家双方に定期的にヒアリングを行い、必要に応じてさまざまな支援につなげるなど、世帯内で悩みを抱え込まないような環境づくりを行う。



● 平面図 ●

家族の変化に応じて柔軟に使い方を換えられるよう、リビングを広くとった。
扉は引き戸を標準とすることでスペースの無駄を省き、狭さを感じさせない住宅となるよう考えた。

● 細部計画 ●

1. 間仕切りや動かせる収納
あとから取り付けができる間仕切りや移動可能な収納を用い、子どもの成長に応じて部屋を仕切る。

2. 防犯面での工夫
窓には補助錠を設置し、防犯や子どもの脱走防止等に役立てる。
玄関にはドアチェーン、モニターホンを設置し、子どもだけの留守番時も安全に過ごせるよう配慮。



立体イメージ



● その他工夫点 ●

・補助金の使用

セーフティネット専用住宅改修事業等の補助金が活用できる可能性例)「間取り変更工事」に当たる場合、補助限度額は 125 万 / 戸

・次の世帯につながる住まい

シンプルな部屋割り、住む人によるカスタマイズが可能な余白を多く残しているため、どんな入居者も受容できる
→今の世帯が退居したあとも住まいが続いていく

